

(第三種郵便物認可)

# 顧客の立場から ベストプラクティスを追求する保険仲立人 ―現状と将来への期待―

株式会社エヌアイビー 6

## 地域密着型の独立系保険仲立人 首里城火災で求められた調整能力

1997年10月、福岡県代理業協会会長 安河内繁喜が発起人となり北部九州の損害保険代理店の有志を募り、株式会社西日本インシュアランスビジネス(現・株式会社エヌアイビー)が設立された。初代代表として長

なぐ訪れていた首里城が火の海となっており、何が起きているか思考が追いつかず、ただただ茫然とテレビの画面で現在起こっている状況を眺めることしかできなかった。首里城は、弊社が指名保険仲立人として入札

若いスタッフがチームとなつてクライアント企業のリスクマネジメントに

芳弘が就任し福岡財務支局長登録第4号として営業を開始。日本版金融ビッグバンの「フリー・フェア・グローバル」という基本構想に基づき、

なかでも最も印象的な出来事としては2019年10月31日に沖縄県で発生した首里城火災での事故対応の事案である。早朝、元請保険会社の担当社員から「今から首里城の件で御社へ伺います」との慌てた声で緊急連絡が入った。朝のニュースを見ていなかっただため、

しかもマスコミを含め全国的にも注目度の高い事故のためさまざまな声も寄せられ、最終的に支払いに至るまで元請保険会社と被保険者間の調整でかなりの時間を要することとなった。

現在、2026年に正殿復元予定で工事が進んでおり、復元された際にはぜひ沖縄へ足を運んでいただきたい。そこには国・県・財団・保険会社の

あり2023年12月、福岡大学において開催されたRIS(全国学生保険学ゼミナール)全国大会へは弊社から3名が出席し、今後企業においてリスクマネジメントを担う



エヌアイビーのスタッフと平田社長(中央)



焼け落ちた首里城を遠目に眺める人々

一瞬何が起ったのか状況が把握できず、改めて聞いてみると首里城が火災で燃えているとのこと。慌ててニュース映像を確認してみると、これまで物件確認やリスク調査で何度と

事故発生時に契約者にとって満足いく、納得のいく保険金支払を行うことは保険媒介に携わる者としての使命であるといえる。そのためには契約者の意向に沿った補償内容で契約媒介を行う必要がある。ただし当然ながら企業・組織には予算の制約があり、限られた予算のなかで契約者の意

向に沿った保険設計を行う調整能力もまた保険仲立人に求められる重要な役割である。当該契約に關しては、事故以前に支払限度額を引き上げていたこともあり、限度額について賛否はあったものの一定程度保険としての役割を全うすることができたものと考えている。この事案においては元請保険会社による多大な努力のおかげもあり事故から半年後に保険金支払いを無事完了することができ、契約者・被保険者からも一定の評価を頂けたものと思っている。

現在、2026年に正殿復元予定で工事が進んでおり、復元された際にはぜひ沖縄へ足を運んでいただきたい。そこには国・県・財団・保険会社の

の喜びはない。



福岡大学で開催のRISのようす

現在、弊社では九州・沖縄を中心に財団・国立大学法人・公立大学法人や上場企業、中小企業の保険プログラムの設計に携わっている。定期的に若い人材も仲立人という業務に挑戦してくれており、経験を積んだ中堅スタッフとやる気を持った

な周知活動を続けていきたい。